



華の千年芸術奉納祭

く叡智なる芸術に秘められし和の心く



“日本のスピリッツとしての御神酒”



長谷川 栄

華の千年芸術奉納祭実行委員会・実行委員長

国際美術評論家連盟正会員・作家

フランス政府シュヴァリエ<騎士>芸術文化勲章

御神酒のことを<おみき>とって、昔から日本では縁起を担いで、祝事や戦さへの出陣の元気付けとし、あるいは旅の鹿島発ちの氣勢挙げ、あるいは神前に供えるお清めの酒として無くてはならないものであった。人が何人か集まるとおみきを交わして熱く友情を深める慣わしの焦点として酒はあった。

M.Y.Y.コミュニケーションズはすでにワインをテーマとし、この伝統あるワインによって参加のアーティスト全員のラベルデザイン発表と祝賀の機会を盛大につくり、Parisなどを舞台に華やかな国際交流をはかって成功していることは知られている。

この度日本の伝統ある御神酒の存在に気付き、日本初の由緒ある御神酒のためのアートラベル・コンクールを企画し、東京で雅宴を催すことになったことは喜ばしい。

日本アートを代表する皆様の作品が、由緒正しい銘酒に燦然とマッチしながら輝き、純日本の祝典の貴やかな光景を演出してくれる日を今か今かと待ち焦がれている次第である。

予定では銘酒「千歳の鏡」の蔵元から直送の歴史ある酒が使われ、江戸幕府15代将軍の徳川慶喜好みの味覚が再現され、日本の三大八幡宮の神社等への奉獻も実行されるという。

以上の御神酒の最初のイベントは来たる、2010年4月2日、「華の千年芸術奉納祭」と銘打って東京文京区の東京ドームホテルで開催され、酒樽の鏡開きを伴った威勢の佳い祝賀を行うということで楽しくなってきた。

《企画趣意》

古来より伝わる文献では、神々の記述＝御神酒の方程式ができる程、人々は神々との交信の際、御神酒を用い続けてきました。そして、その風習は科学文明が発達した現代でも変わることなく伝えられ、地域の御祭りなどを通じて、人と人とのコミュニケーションを円滑にする役目も担っています。

また最近では、フランスを中心としたヨーロッパ圏で絶大なる芸術的権威を誇るワインのアートラベルの風潮と相まって、御神酒のラベルも世界中から注目をされているとの報道もなされているようです。その話題になる背景の一つとして列挙されるのが御神酒もワインと同様に日本の法によって細かく規制されている点であり、その基準を満たした最高峰の大吟醸のラベルに起用されるということは、後世に伝えるべき新たな芸術ジャンルの一つであると云っても、決して過言ではありません。

しかも、この度の御神酒は、千年先の未来へと現代の芸術文化とその創造者である先生方の名前を伝えるために詠えられた最高峰の大吟醸「千歳の鏡」であり、その生命の源とも呼べる水は、江戸幕府15代将軍・徳川慶喜所縁の御膳水で作られています。さらにその御神酒の作り手である“華の千年芸術祭実行委員会”の池本浩久氏の酒造元は、近江の美酒の作り手としても全国的に知られており、「酒にも生命がある」との信念に基づいて製造されているので、まさに時空を越えて語り継がれる代物なのです。

——2010年4月2日の「華の千年芸術奉納祭」。

それは、叡智なる日本芸術が神々からの賜物とされる御神酒のラベルとなって祝される日であり、現代の日本の首都・東京（東京ドームホテル）でお披露目会および盛大なセレモニーが行われる記念すべき日でもあります。

そして、その後は日本国内で最も歴史ある神社の一つである奈良県の大神神社（三輪明神）、芸術の神とも云われている弁才天を祭った滋賀県の竹生島にある宝巖寺（※奈良時代に聖武天皇が天照大神の神託によって建立した寺院）および都久夫須麻神社と京都の石清水八幡宮（※日本三大八幡宮の一つで、平安時代に清和天皇の命によって建立され、皇室・朝廷の篤い信仰を受けた）、安楽寿院（※かつて、白河・鳥羽・後白河の三代に渡る院政の舞台ともなった天皇家所縁の寺院）へと奉納されますので、一過性の展覧会などではなく、まさに未来永劫、現世に形として記録として遺ってゆきます。

《記念パーティーについて》

日 時……………2010年4月2日(金)

A.M.11:00からP.M.4:00までの立食形式となります。

会 場……………東京ドームホテル(東京・文京区)B1Fシンシアの間
当日は、叡智なる日本芸術が起用された御神酒ラベルを奉納することを祝し、御神酒ラベルの展示、ならびにセレモニーを予定しております。

この度の「千歳の鏡」を試飲いただけます。

その他、軽食もご用意させていただきます。

展示方法……………一升瓶での展示をさせていただきます。

※当日展示されています瓶、試飲の御神酒のお持ち帰りは致しかねますので、予めご容赦下さい。

パーティーの期日が近づきましたら、ご案内状をお送りさせていただきます。



東京ドームホテル外観



メインロビー



中宴会場「シンシア」

《御神酒「千歳の鏡」のご贈呈について》

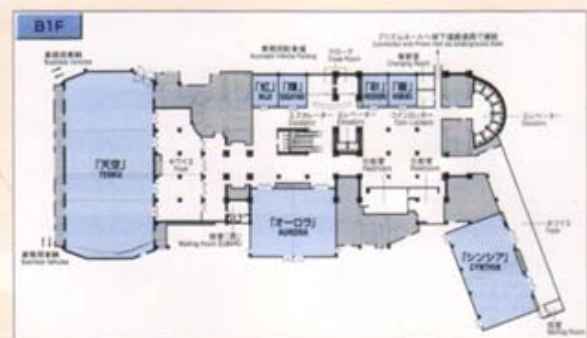
華の千年芸術奉納祭実行委員会認定の正式な高級木箱にて、お届けいたします。なお、お届けの時期につきましては、2010年4月中旬から下旬を予定しておりますが、箱詰めを含め、あらゆる工程に拘りを持って行っている関係上、やむなく前後する場合がございますので、その際は何卒ご容赦下さいませ。

《追加御神酒「千歳の鏡」ラベルについて》

ラベル再制作費¥15,000-(税、送料込み)にて、承ります。

この度の御神酒「千歳の鏡」は、華の千年芸術奉納祭を経て、日本でも格式の高い寺院に奉納することを主とし、限定生産とさせていただいているため、本数に限りがあり、ご注文が殺到することが予想されます。

つきましては、追加「千歳の鏡」ラベルのご希望の際は、なるべくお早めに弊社・担当までご連絡いただきます様、お願い申し上げます。その後、担当より追加「千歳の鏡」ラベルのお申込書を発送させていただきます。



B1F詳細図



※会場へのアクセス方法

JR中央線・総武線「水道橋駅東口」より徒歩約2分
都営地下鉄三田線「水道橋駅」より徒歩約1分
都営地下鉄大江戸線「春日駅」より徒歩約6分
東京メトロ丸ノ内線「後楽園駅」より徒歩約5分
東京メトロ南北線「後楽園駅」より徒歩約5分



《蔵元について》

「一粒の米にも萬人に苦勞を思ひ 一滴の水にも天地の恵みを感じ奉る」——その想いと酒造期に厳寒・豪雪地帯となる琵琶湖西北岸に位置する滋賀県今津町の環境から生まれてくる池本酒造の「琵琶の長寿」。それは、“近江の美酒”としても知られており、「酒造りは人づくり。なぜなら、人がものをつくる。いいものはいい人格から生まれる」の精神に基づき、先祖代々より伝わる秘伝の製法を用いて、完全なる手搾りに拘っている蔵元です。

また仕込み水を始め、洗瓶に至る全ての工程で、江戸幕府15代目の将軍・徳川慶喜に所縁のある御膳水（※現在、池本酒造の蔵内の井戸水）を使用しており、今までにも数々のコンクールで、金賞を受賞されています。



《御神酒「千歳の鏡」について》

日本一の湖・琵琶湖がもたらす大自然の中で行われる“もろみとの対話”——それは、江戸幕府所縁の選ばれし御膳水と完全無農薬の酒米が一つの世界を創造することを意味しています。ゆえにこの度の「千歳の鏡」は、酒造好適米として名高い「山田錦」を主とし、玄米粒がおよそ半分の小ささになるまで精米したお米で仕込んだ大吟醸酒と池本酒造内で長期熟成させた純米大吟醸酒などを特別調合して生まれた現世に二つとない究極の御神酒です。また、まろやかな舌触りと花の香を想わせるような風味は、まさに叡智なる日本芸術の精神を丁寧に磨かれた鏡の如く映し、遙か千年の時を経て、未来へと伝えるに相応しきものとなることでしょう。



《御神酒「千歳の鏡」の奉納先について》

大神神社(三輪明神)

奈良県桜井市にある大神神社(おおみわじんじゃ。三輪明神とも)は、国のまほろばと称えられる大和の東南に位置する円錐形の秀麗な三輪山を御神体として、大物主神(おおものぬしのかみ)をお祀りします。

拜殿の奥にある三ツ鳥居を通して、三輪山を拜むという原初の信仰の姿が今に伝えられ、日本最古の神社であります。国造りの神様であり、五穀豊穡はもとよりすべての産業の開発をはじめ、医薬・方除け・酒造り(醸造)など人間生活全般をお護り下さる神様として全国各地より多くのお参りがあります。



宝巖寺／都久夫須麻神社

古来より神の住む島として信仰されている滋賀県長浜市の竹生島。この竹生島は神仏が一体化した思想の中で発展してきました。当時は、「弁天堂」「観音堂」「都久夫須麻神社」などの塔頭を総称して宝巖寺といわれてきましたが、明治時代の神仏分離令により、現在の「宝巖寺」「都久夫須麻神社」に分かれました。宝巖寺は、西国三十三箇所観音霊場の第30番札所であり、弁才天（※元来はインド起源の河神であり、芸術学問の神様とも云われている）発祥の地としても知られています。創建は724年、聖武天皇の夢に天照大神が現れ、「琵琶湖に小島があり、その地は弁才天の聖地であるから寺院を建立せよ」との信託があったことから、行基を勅使として竹生島に遣わし、寺院を開基させたとされています。現在、宝巖寺の観音堂は舟廊下を通じて、都久夫須麻神社本殿へと続いています。宝巖寺観音堂入り口の「唐門」や、都久夫須麻神社本殿は国宝となっています。



石清水八幡宮

石清水八幡宮は、京都府八幡市の男山山上にある神社で、日本三大八幡宮の一つとして数えられるとともに二十二社の上七社の一つでもあり、本殿などの建造物16棟などが国の重要文化財に指定されています。また860年に清和天皇の命により社殿を建立されて以来、皇室・朝廷より篤い信仰を受け、2010年4月3日に御鎮座1150年の節目の日を迎えます。



安楽寿院

かつて、白川・鳥羽・後白河による三代の院政の舞台となった安楽寿院は、鳥羽離宮の東殿に鳥羽上皇が造営した仏堂を起源とした天皇家所縁の寺院として、貴族たちから篤い信仰を受けてきました。1137年に開山されて以来、京都府伏見区竹田の風光明媚な地で、今も境内に接して鳥羽天皇と近衛天皇の陵が当時の面影を現代に伝えています。



主 催

《華の千年芸術奉納祭実行委員会》

実行委員長 美術評論家 長谷川 栄 先生

実行委員 心理学者 清田 予紀 先生

デザイン研究家 牧谷 孝則 先生

池本酒造代表 池本 浩久 氏

小 社 代 表 志知 正通

企画運営

M.Y.Y.コミュニケーションズ株式会社

後援協力

東京ドームホテル

株式会社ますもと

池本酒造有限公司

株式会社サカエ・ライト

【ご選出にあたって】

『華の千年芸術奉納祭』の審査にあたっては“華の千年芸術奉納祭実行委員会”の各専門家の先生方によって、ご選出されます。また審査対象となる作品は、海外で行われた展覧会を始め、日本各地で行われている展覧会（※各都道府県で行われる市展などの地方展、個展なども含む）、美術の専門書籍やインターネット上で発表された全ての作品となります。

※本年度にご発表されたものに限定せず、過去数十年間に発表された作品も対象になっています。

【ご受賞について】

東京ドームホテルで行われる『華の千年芸術奉納祭』終了後、20日間の猶予を以って、華の千年芸術奉納祭実行委員会内で厳正な審査を行い、正式にご受賞者および受賞名を決定いたします。

※なお、審査期間中の中間報告などは公正を期するため、一切応じかねますので、予めご了承下さいませ。

【受賞名一覧】

華の千年芸術奉納祭大賞 千歳の鏡芸術伝道師 華の千年芸術奉納祭功労者賞

千年芸術神明金賞 華の叡智芸術大使 などを予定。